



「変化の時代を生きる力」

校長 伊東 康孝

春のやわらかな陽射しに、確かな季節の移り変わりを感じる頃となりました。この度、本校を巣立ち、新しい世界へと羽ばたく14名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、これまでお子様を温かく支えてこられた保護者の皆様にも、心よりお祝いと感謝を申し上げます。

さて、皆さんがこれから歩み出す社会は、今、大きな変化の中にあります。AIなどの新しい技術が急速に進み、これまでの「当たり前」が次々と変わっています。同時に、世界では紛争や価値観の対立が続き、身の回りでも予期しない出来事が起こるなど、不安を感じるニュースも少なくありません。未来を正確に予測することがとても難しい時代です。

だからこそ、これからの社会を生きていくうえで大切になるのは、「自分で考える力」です。学び続けながら、何が本当に大切なのかを自分で考え、判断し、行動していくことがこれまで以上に求められます。AIが進化しても、与えられた答えをそのまま受け入れるのではなく、問いそのものを見つめ直し、新しい価値を生み出していく力が、これからの社会を支える土台になります。

また、「違いを理解しようとする姿勢」も大切です。人は一人ひとり考え方が違います。自分と違う意見を否定するのではなく、「相手にも大切にしている考えがある」と想像し、対話を重ねることが、これからの社会には欠かせないと思うのです。

皆さんは本校で多くの経験を積み重ねてきました。そこで身に付けた、一步を踏み出そうとする気持ちや、新しいことにも向き合おうとする姿勢は、これから必ず皆さんを支えてくれます。どうか自分の可能性を信じ、失敗を恐れずに一步ずつ前へ進んでください。皆さんの未来が、希望と幸せに満ちたものになることを、私たちは心から応援しています。

1学年 社会見学

晴天に恵まれた11月7日(金)、富山市へ校外学習に出掛けました。

富山県庁、防災危機管理センター、県議会議事堂、富山市役所レストラン・展望台、富山市科学博物館・プラネタリウムを見学・体験しました。富山県の歴史、文化、政治、産業について、また公共施設や公共交通機関利用の仕方について学ぶことができました。

帰校後はグループごとに学んだことをまとめました。「普段は入れない場所での貴重な経験がうれしかった」や「博物館での体験などが楽しかった」などの感想が聞かれ、充実した社会見学となりました。



県議会議事堂



富山市科学博物館

校内 スポーツ大会

12月19日(金)に体育委員会が企画した「クラス対抗ドッチビー大会」を行いました。生徒全員が楽しめるように、話し合いながらルールや試合時間を決め、協力して対戦表や賞状を作りました。

当日は、各クラスでパス練習を行ってから試合に臨みました。ナイスプレーが続き、盛り上がる展開となりました。悔しがる表情を見せる生徒もいましたが、ルールを守って安全に試合を終え、閉会式では皆充実した表情でした。スポーツを通して各学年の交流を図る良い機会となりました。



受賞者報告

令和7年度生徒図書委員表彰 谷内山瑞貴（3年）
 令和7年度富山県高等学校体育連盟賞 梶原 葵（3年）
 令和7年度全国特別支援学校文化祭写真部門
 全国特別支援学校文化連盟会長賞 長谷川優希（3年）
 りそなグループ賞 碓 聖晴（2年）
 第15回「とやまの農山村写真展」参加賞
 谷内山 瑞貴（3年）稲垣 絵莉奈（2年）高嶋 祥太（1年）
 橋爪 希依（1年）川本 泰輝（1年）
 第25回フェスティバル障害のある人もない人もフライングディスク！
 1位 福田一斗（3年） 2位 川原尋仁（2年）、出村連（1年）
 3位 長谷川優希（3年）
 敢闘賞 飴谷峻介、平野紅龍（3年）、松田壮真（2年）
 チーム戦4位（福田、長谷川、平野、飴谷、上田）

ご寄付を頂きました

2月16日（月）、株式会社小松製作所人事部 ビジネスクリエーションセンタ様よりご寄付を頂き、贈呈式がありました。

日頃から高岡高等支援学校の振興並びにPTA活動の推進に格別のご理解とご協力をいただいています。

このたびのご寄贈について、心より感謝申し上げます。今後の教育活動に有効活用させていただきます。



令和8年度当初の行事予定 4月8日（水）始業式、入学式、午後放課
 5月1日（金）学習参観、PTA 総会、学年懇談会、携帯電話安全教室（保護者向け）

1年間を振り返って（学校総合評価）

保護者の皆様、学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今年度の重点課題（アクションプラン）への取組を含め、全14項目で「かなり思う」「やや思う」が85%以上であり、本校の教育活動について概ね満足いただいていると捉えております。また、いただいたご意見について検討し、改善できるところについては対応してまいります。

今年度のアクションプランへの取組状況と評価は次の通りです。 ※詳細については、学校HPをご覧ください。

項目	取組状況	評議員の意見	評価
【学校生活】 防災意識の向上 <達成目標> 防災意識が高まった生徒の割合90%以上	○専門知識を有した外部講師との連携 ・薬物乱用防止教室（高岡警察署、学校薬剤師） ・避難訓練、消火器体験（高岡消防署） ・まちづくり出前講座（高岡市危機管理課防災アドバイザー） ○生徒保健委員会での活動 ・防災ヘルメット試着デモンストレーション、災害備蓄用品整備、保健集会の企画（防災クイズ、防災グッズ作成）、運営 ○各教科と関連した学習内容や体験学習 ・理科、社会、家庭、保健体育	災害に際してのメンタル面でのフォローもあるとよい。 人命を守ることは基本中の基本であるので、これを機に誰が担当してもできる、この地域に合った防災の在り様を、ハード面（設備や物資）とソフト面（人的役割）をシステム化し、整備してもよいのではないかと。意識の向上だけでなく、実践力につながるような支援をしていくことが大切である。	A
【進路支援】 進路選択に向けた関係機関との連携と安定した職業生活 <達成目標> ①福祉や行政との連携が必要になるケースのガイドライン作成 ②アンケート調査を通じた職業生活についての問題の改善	①ガイドラインの作成 年度当初、ハローワークや障害者就業・生活支援センターと情報共有。6月に児童相談所と施設を含めた3者の話し合い。7月と12月、連携会議でスケジュールや各機関の役割について確認。9月下旬に対象生徒の支援を依頼する行政機関と共通理解。 ②職業生活についての問題の改善 同窓会総会と文化祭で来校した卒業生を対象に「仕事に関するアンケート」を実施。延べ72名が回答。悩みがあるが解決できていないと答えた1名と面談。事業所と本人が求める支援の改善の話し合い。	一般の高校と違い、一人一人手厚く本人の意思や特徴を踏まえて進路指導をしている。 アンケートで相談する人がいないと答えた卒業生に対して、相談できる人をある程度限定しておくなどのアフターケアがあればよい。移行支援会議に多くの方が参加していることで安心感につながる。卒業後に相談するところが多いのはありがたいことである。	A

